



第2回東北教育旅行セミナー



次は「15：00」より

プログラム8

「だからこそ山形県で学ぶ」

(山形県観光物産協会)

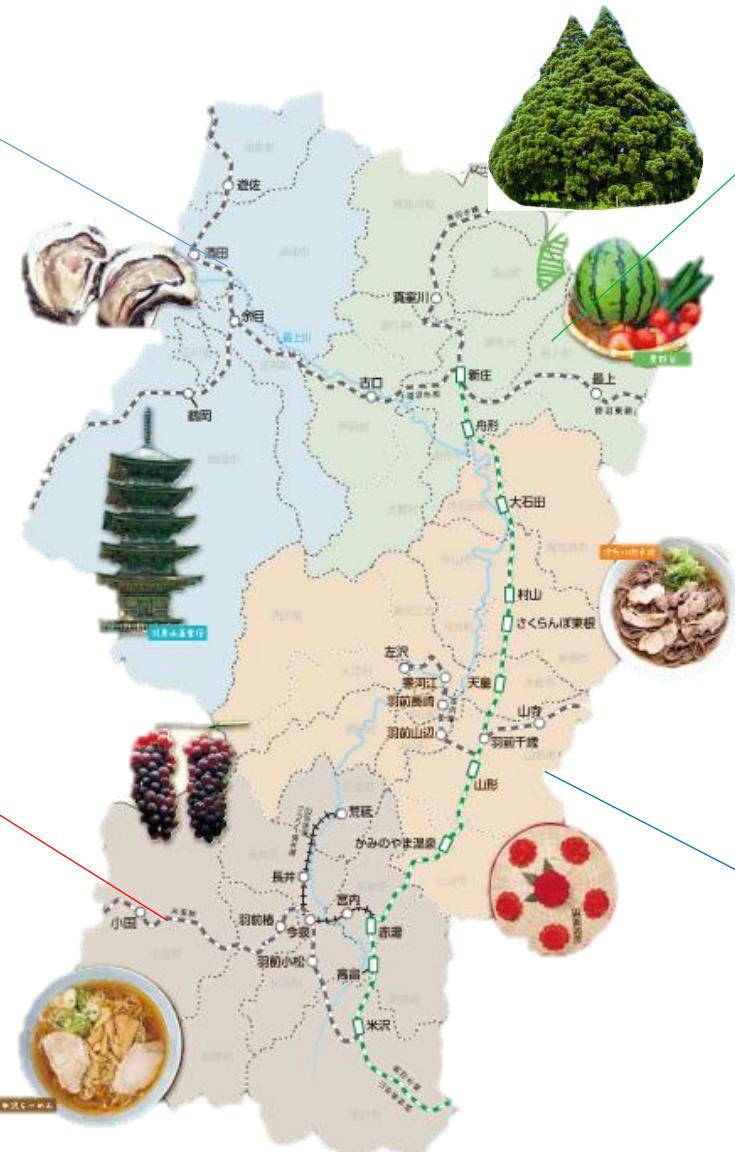


【だからこそ山形県で学ぶ】
「探究型」教育旅行×SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



山形エリアマップ



庄内エリア

海・山・里の恩恵を受けた豊饒の地の
素晴らしい景色

出羽富士とも称される鳥海山に山岳信仰の靈場出羽三山、夕日が映える茜色の庄内浜、稲穂揺れる庄内平野。城下町鶴岡と湊町酒田を中心に、海・山・里がバランスよく共存しています。



置賜エリア

街道の要衝に葡萄が実り
城下町にとりどりの花満ちる

優れた智将によって築かれ、かつ護られた米沢城下。端正な街並みを囲むように田園地帯が広がり、葡萄が実り、山へ分け入れば秘湯が。夏山登山やトレッキングも楽しめます。



最上エリア

悠々と流れる最上川
城下町の心意気と雪国文化にふれる

山形でも指折りの豪雪地帯、最上。巨木や金山杉など豊かな森林資源や清流、そこで採れる山菜や川魚といった山間地の文化が、雪とともに育まれています。



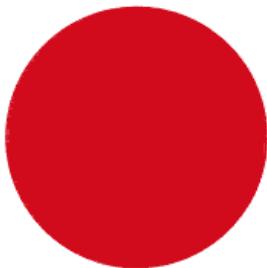
村山エリア

盆地の四季、その鮮やかな移り変わりが
米どころ、酒どころ、果樹王国をつくる

山地や森林の面積が多い山形で、村山盆地の扇状地や自然堤防はさくらんぼをはじめとする果樹の栽培に最適。自然美はそのまま山寺や蔵王の佳景へと繋がります。また、四季折々の果物狩り体験も可能です。



やまがたが誇る「日本遺産」



JAPAN HERITAGE

日本遺産



「自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』

～樹齢300年を超える杉並木につつまれた
2,446段の石段から始まる出羽三山～

【教育旅行体験プログラム（一例）】

・山伏修行体験、羽黒山五重塔、宿坊宿泊体験 等



サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ

【教育旅行体験プログラム（一例）】

・松ヶ丘開墾場、致道館、多層民家(田麦侯集落)見学 等



荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

【教育旅行体験プログラム（一例）】

・酒田市内まちあるき(自主研修)、山居倉庫見学 等



「山寺が支えた紅花文化」

【教育旅行体験プログラム（一例）】

・山寺(立石寺)、紅花資料館、紅花染め体験 等



村山エリア

山寺・紅花文化・蔵王

人気の山寺・蔵王を中心とした、歴史文化体験とトレッキング



山寺（立石寺）

慈覚大師円仁によって開かれた古刹で、正式名称は宝珠山立石寺。松尾芭蕉の「閑さや岩にしみ入る蝉の声」の名句でも知られています。芭蕉になったつもりで俳句を詠むのも面白い体験です。



紅花染め体験

山形県花に指定されている「紅花」は、古くから染料として使われ、京の都を彩ってきました。紅花文化を学びながら、紅花染め体験であなただけのオリジナル作品を作ってみませんか。



観光果樹園

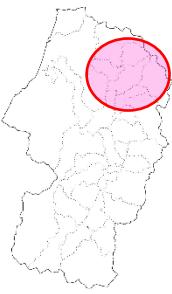
山形県は果樹王国。特に村山エリアでは生産量が全国1位のさくらんぼ狩りやぶどう狩りなど各地で体験できます。また、冬期間は雪中いちご狩りなども楽しめます。



蔵王トレッキング

蔵王といえば「樹氷」「スキー」を思い浮かべる方が多いと思いますが、グリーン期のトレッキングもお勧めです。四季折々に美しい蔵王が堪能でき、トレッキングを楽しんだ後は名湯で知られる蔵王温泉で疲れを癒せます。

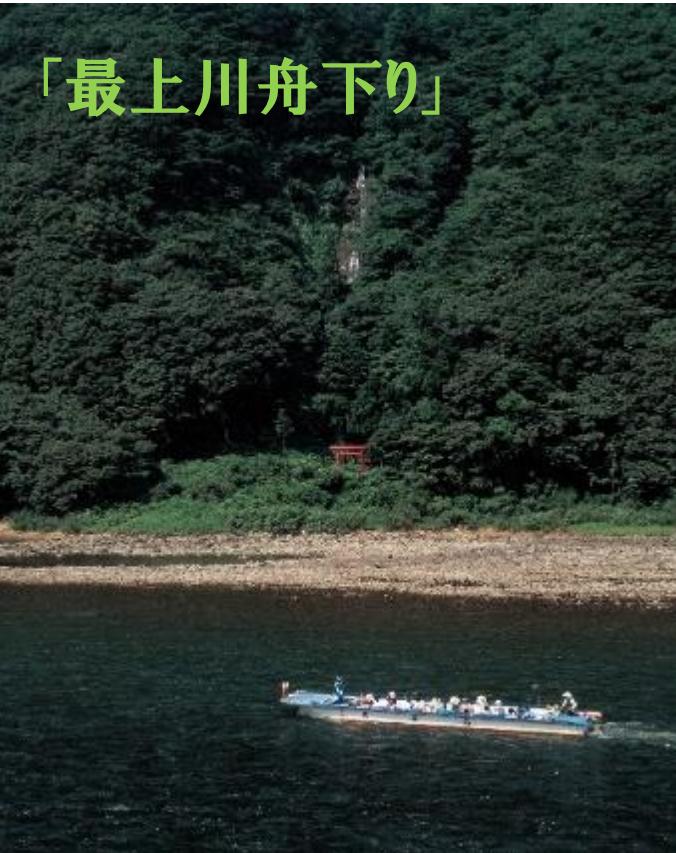




最上エリア

最上川舟下り (戸沢村)

松尾芭蕉「奥の細道」の足跡をたどる



季節ごとに美しい表情を見せる最上峡。雄大な景色を見ながら、船頭さんの名調子とともに船旅を楽しむことができます。



「いかだ下り」 日本三大急流「最上川」本流で唯一の体験



「農作業体験」・「農家民宿宿泊体験」

戸沢村には、手入れされた豊かな里山の恵みと先人が拓いた見事な田畠によって、人々の暮らしが、多くの生き物達と共に共生して営まれています。

◆体験内容

田植え体験、野菜種まき植え付け体験、間伐枝打ち体験など

【プログラム内容】

- ①フラッグ作成 ②いかだ組立 ③ミーティング ④いかだ下り ⑤BBQ(ふるさと村)
⑥舟下り(リバポート)
Aプラン①～⑥ 約4時間 B
プラン①・③～⑥ 約3時間
人数:4名以上42名まで
期間:6月下旬～9月下旬
アクセス:山形新幹線新庄駅～陸羽西線「古口駅」～徒歩5分



置賜エリア 農村体験・農家民宿 (飯豊町)

雄大な自然の中で、ココロとカラダにホッと一息

飯豊連峰と朝日連峰が連なり、豊かな自然に囲まれた町「飯豊町」
ふるさとに帰ってきたような田舎の生活が体験できます。
都会の喧騒からは想像できないような、温かい「**おかれりなさい**」に出会えます。

- 農家民宿先: 飯豊町中津川地区 最大40名受入可能(同一農家に5名でお泊りいただいた場合)
※40名以上お泊りの際は要相談
- 主な体験メニュー: 田植え、山菜採り、農作業、トレッキング、河原あそびなど



置賜エリアは6市町連携で最大300名の農家民宿受入可能

置賜
歴史学習

飯豊・朝日連峰の麓で、
心温まる人とのふれあい



上杉神社
(米沢市)



亀岡文殊
(高畠町)



庄内エリア

鶴岡市立加茂水族館

ギネス認定！クラゲの展示は世界一

クラゲの展示だけではなく、そのビジネス方法も注目されている山形のホットスポット！

山形県内唯一の水族館。クラゲの展示種類(50種類以上)は世界一を誇り、色とりどりの様々なクラゲが漂う様子はとても魅惑的です。このほかにも子どもに人気のアシカショーやウミネコの餌付けなど楽しさ満載。ぜひ教育旅行で訪れてほしいスポットです。



鶴岡駅－加茂水族館

- 湯野浜温泉行き：JR鶴岡駅より約30分「加茂水族館」下車すぐ
- 鶴岡観光ぐるっとバス＜加茂コース＞JR鶴岡駅より約40分「加茂水族館」下車すぐ



日本海に沈む夕陽も絶景

クラゲの生態や分類、繁殖などの不思議を学ぶ。

周辺温泉地はこちら！

湯田川温泉
あつみ温泉
湯野浜温泉
由良温泉



酒田市 北前船がもたらした文化と歴史を学ぶ

これから求められる教育旅行

新学習指導要領に
対応した教育旅行

主体的・対話的で
深い学び

総合的な学習

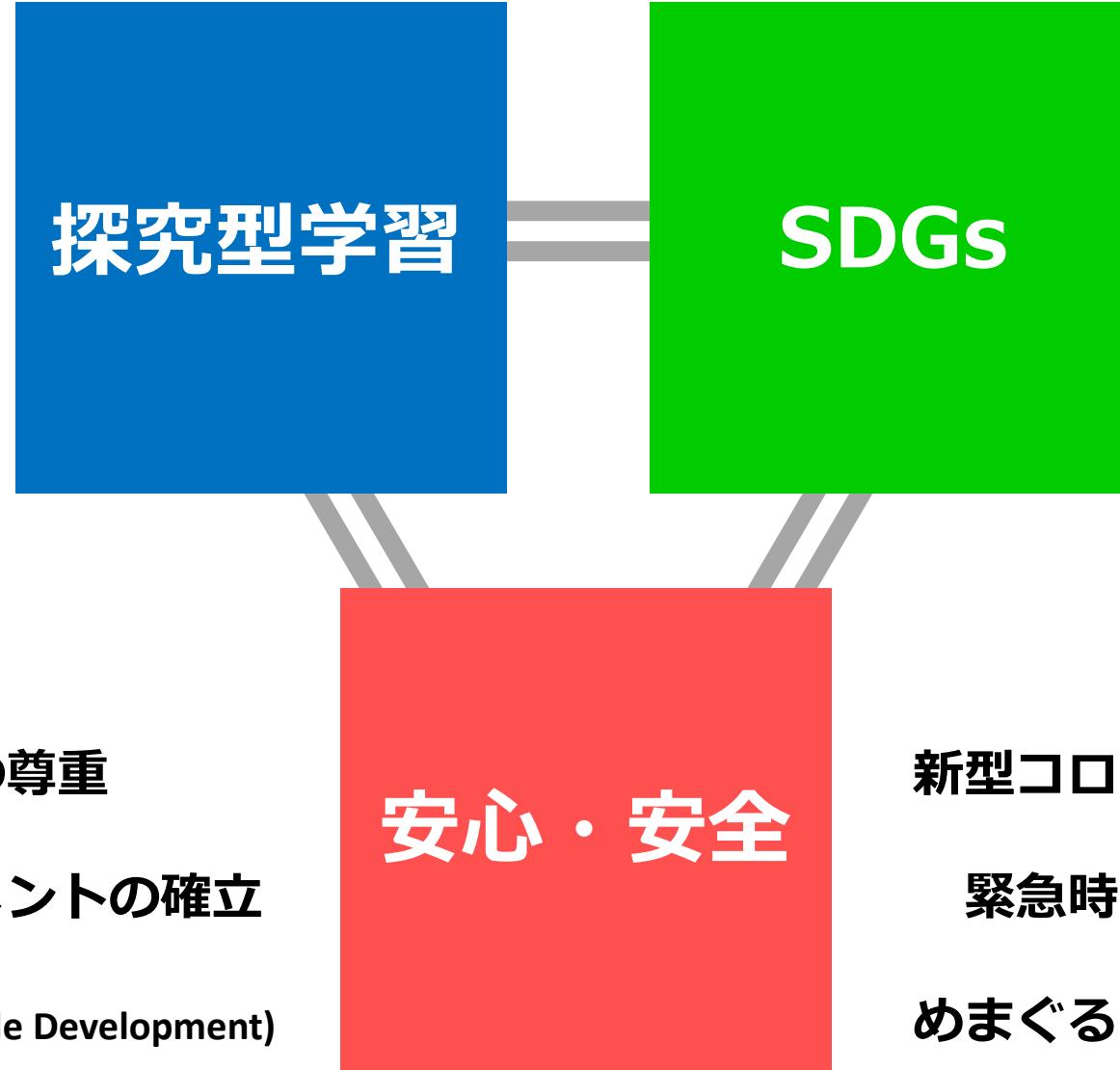
キャリア教育

課題解決能力

生徒の自主性と気づきの尊重

カリキュラム・マネジメントの確立

ESD (Education for Sustainable Development)



社会への関心と参画

持続可能な社会づくり

将来の自己形成

グローバリゼーション
への積極的対応

若い時代に本物に
触ることの意義と目的

新型コロナウイルス感染症への対策

緊急時における危機管理対応能力

めまぐるしい社会情勢の対応と手段

探究型教育旅行

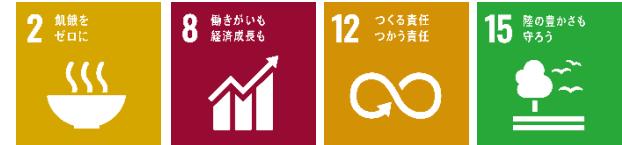
- ▶生徒ひとりひとりが旅行を通じて何を学びたいか、そのためにはどのようなテーマを設定し、どんな計画を立てるか考え、クラスやグループ等で話し合い、そのテーマに向けて旅行に臨む。 ⇒**問い合わせる**
- ▶旅行中現地において、自らが立てた「問い合わせ」に対し、どのような発見や気づきがあるか。体験や見学、地元の人とのコミュニケーション等を通じ、机上だけでは分からない「五感」を使った感動体験
- ▶旅行を振り返り、どのような気づきや学びがあったか。自らが立てた「問い合わせ」に対し、どのように答えに導くのか。またそれをどうやって表現するか考える。
⇒「旅行前～旅行中～旅行後」一連のストーリーとして臨む、気づきと学びのある教育旅行

SDGs教育旅行

- ▶新学習指導要領の前文・総則に記載 ⇒「持続可能な社会の創り手となる」
- ▶社会の一員としての役割を考える ⇒自分たちが社会のために何ができるか
- ▶そのためには現在どのような問題があるかを知る ⇒「関心をもつ」「社会とのつながりを見つける」

「探究型学習」教育旅行のご提案

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



米どころ山形で生まれたブランド米「つや姫」「雪若丸」を研究する



事前学習

- ・日本各地にある「ブランド米」を調べる
- ・山形のブランド米「つや姫」「雪若丸」とは？
- ・ブランド米として人気がある理由
- ・ブランド米が生まれた「山形の環境や風土」について

現地学習

- ・「つや姫」「雪若丸」誕生のルーツを知る
- ・農業施設を見学する
- ・農業体験を通じ、生産者の「思い」「喜び」「苦労」などを聞く
- ・「食育」について考える

事後学習

- ・自分たちの身近なところにあるブランド米について調査し、「つや姫」「雪若丸」と比較研究する
- ・地元の米づくりについて調べる
- ・米の消費拡大について考える
- ・農業振興、将来の農業のあり方について考える

「探究型学習」教育旅行のご提案



俳聖 松尾芭蕉「奥の細道」の足跡を辿る



事前学習

- ・俳句の概要、歴史、特徴、技法、著名な俳人などについて調べる
- ・松尾芭蕉について学ぶ
- ・「奥の細道」の全行程、また、山形県内の行程を知る
- ・山形県で詠んだ句について調べるとともに、その句の意味や情景を知る



現地学習

- ・芭蕉が俳句を詠んだ場所、ゆかりの地を訪れ、改めてその句の意味と背景を知る
(立石寺・芭蕉清風記念館・最上川舟下り・出羽三山 等)
- ・芭蕉に思いを馳せ、それぞれの地で俳句を詠み、俳句に親しむ

事後学習

- ・詠んだ俳句を発表し合い、意図を推理し感想を述べ合うことで俳句に親しむ
- ・旅行を通じ、自分なりの「奥の細道」(紀行文)を作成する

「探究型学習」教育旅行のご提案

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



農家民宿・民泊と農業体験を通じ、農山村の暮らしを学ぶ



事前学習

- ・山形県の気候や風土について
- ・山形県の農業について
- ・山形県の伝統料理について
- ・稲作、野菜、果樹等農業大国である理由についての調査 など



現地学習

- ・農家の宿泊を通じ農山村の暮らしを体験する
- ・農作業体験を通じ「農業」について五感で学ぶ
- ・郷土料理づくりで山形の文化を知る
- ・各受入家庭で家族とふれあう など



事後学習

- ・自分たちが住んでいる土地と山形の農業の比較
- ・気候や風土の違いによる作物の違いや特性を知る
- ・収穫した作物を使ったレシピの開発
- ・バザー等を通じ継続した交流
- ・農業の将来を考える
- ・過疎化、高齢化等地方が抱える問題の課題解決 など

「探究型学習」教育旅行のご提案



世界一の「クラゲ水族館」と日本海の生態を学ぶ



事前学習

- ・なぜ加茂水族館はクラゲに注目したのか？
- ・廃館寸前とまで言われた水族館の復活のカギとは？
- ・クラゲの種類や特性を知る
- ・庄内は海の幸が豊富。その理由とそれを活かす取り組みを知る

現地学習

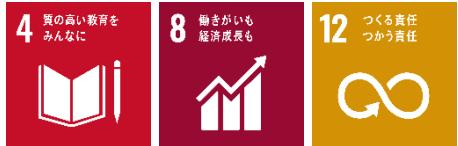
- ・加茂水族館の視察見学
- ・生物の多様性について現地で学ぶ
- ・バックヤード見学を通じ、飼育の実態とクラゲの生態を調査
- ・飼育員の苦労話、成功までのヒストリーを聞く
- ・地引き網、貝殻キャンドルづくりなどの体験で海に親しむ
- ・「庄内浜文化伝道師」から話を聞くとともに、海の幸を味わう

事後学習

- ・海からもたらされる資源について調査し、海洋資源の保全について考える
- ・暮らしと海の関わりについて考える
- ・地域の特色ある食文化について調査する
- ・海を利用した経済活動について学ぶ

「探究型学習」教育旅行のご提案

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」



事前学習

- ・日本遺産「山寺が支えた紅花文化」の事前調査
- ・日本農業遺産「歴史と伝統がつなぐ『最上紅花』」の事前調査
- ・紅花のルーツと歴史を知る
- ・山形県の県花となった理由を探る



現地学習

- ・紅花文化について学べる施設を見学しその背景を知る
- ・紅花生産の苦労や、伝統を受け継ぐ生産者の話を聞く
- ・紅花資料館を訪れ、当時の栄華を見聞する
- ・紅花染め体験を通じ染色のしくみについて学ぶ
- ・北前船交易によってもたらされた、山形に根付く上方文化を知る
- ・日本遺産の構成文化財を巡る
- ・紅花がルーツとなっている「花笠」を使い、「花笠踊り」を練習し全員で踊る

事後学習

- ・伝統や技術の継承について考える
- ・「農業」「染色加工」「歴史」「文化」「芸術」等様々なテーマでのより専門的な学習
- ・自分たちの身近なところで認定されている「日本遺産」「日本農業遺産」について研究する

「探究型学習」教育旅行のご提案

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



地方の課題を希望に変える「ヤマガタデザイン」で持続可能なまちづくりを考える



事前学習

- ・地方が現在抱えている問題や課題は何か
- ・その問題は何が原因となっているのか
- ・山形県、特に庄内地域の農業や観光、産業等について事前に調べ、特色について知る
- ・持続可能な地域づくり・まちづくりとは何か



現地学習

- ・スイデンテラスでの宿泊を通じ、地産地消と地域に根ざす観光のあり方を体験する
- ・キッズドームSORAIで、遊びを通じ考える姿勢を学ぶ
- ・有機農業の取り組みについてフィールドワークやヒアリングなどを実践する
- ・世界に誇る最先端技術の現場を視察する



SHONAI
ROOTS
Ecological Agri From SHONAI



事後学習

- ・地方が抱える問題に対し、どのような方策が重要か、そのために何が必要か、自分は何ができるか考える
- ・自分の住んでいる土地の「まちづくりグランドデザイン」を考え、発表する
- ・自分たちが暮らし続けていきたい町のあり方について考える

「探究型学習」教育旅行のご提案



蔵王でのスキー修学旅行と共に、「樹氷」ができるメカニズムと環境問題を学ぶ



事前学習

- ・「樹氷」とは何か
- ・なぜ蔵王で樹氷ができるのか
- ・蔵王の樹氷の現状について知る
- ・地球温暖化の現状と防止に向けた取り組みや課題について学ぶ

現地学習

- ・現地インストラクターの指導により、各自のレベルに合ったスキーレッスンを受ける
- ・本物の樹氷を自分の目で見てみる
- ・現地ガイドから樹氷について学ぶ
- ・樹氷のメカニズムを観察する
- ・雪とふれあうことにより、生活環境の多様性を学ぶ

事後学習

- ・身近な環境問題について考える
(例) 地球温暖化 ・ 環境保護
異常気象による自然災害 など

「探究型学習」教育旅行のご提案

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



やまがた森林（モリ）ノミクスを学ぶ～森との共生から森林資源の利活用へ～



YAMAGATA
森林ノミクス
モリ



植樹の様子



間伐の様子



高性能林業機械の作業



木質チップ工場

事前学習

- ・「やまがた森林ノミクス」とは何か？
- ・森林の重要性について学ぶ
- ・森林の現状と課題を知る
- ・森林の多面的機能について学ぶ

現地学習

- ・「やまがた森林ノミクス」の取り組みについて学ぶ
- ・「植樹」を通じ後世に残る体験を行う
- ・「間伐体験」でその必要性を知る
- ・「林業体験」を通して森林に親しむ
- ・キノコや山菜等、森の恵みを食する
- ・森林トレッキング等のアクティビティ体験
- ・木質バイオマス施設の視察見学

事後学習

- ・森との共生について考える
- ・森林資源の利活用について考える
- ・生態系の保全と動植物との共存について考える
- ・森林保全、環境問題について考える
- ・将来のエネルギー問題について考える
- ・林業振興を通じ地域活性化について考える

「探究型学習」教育旅行のご提案



やまがた森林（モリ）ノミクスを学ぶ～森との共生から森林資源の利活用へ～

モリ 森林ノミクス 学んでね

新庄商議所 最上地域ツアー商品化



仙台の中学生企業見学や植林

新庄商議所は本年度、本県が推進する「やまがた森林ノミクス」を最上地域で学ぶツアーを商品化し、県内外の学校などが興味を示している。21日は、仙台市の中学生たちが最初の客として訪れ、関連企業の見学や植林作業などを体験した。国連の持続可能な開発目標(SDGs)と絡めた学習素材にも適していることから、同商議所では積極的にPRしている。

新庄、最も森林資源の利活用や林業振興に関わる企業やスポットが多い。同商議所はこの地域産業を資源と捉え、観光と連携させたツアー(やまがた森林ノミクス)を商品化する。これを機に、新庄市・新庄中核工業団地

泊2日の教育旅行に取り入れた。

この日は同校の2年生135人が参加。新庄市では木質バイオマス発電所、やまぐらの製材工場、マルク林業のカラマツ苗圃場などを見て回り、戸沢村角川では半の植林作業を体験した。同発電所のなかわの里(三沢村)が提供するまでの仕組みや意義について説明を受けた。下倫佳さん(14)=複雑な過程が理解できた。環境を

守るために私たちができることを考える旅行にした」と話した。

同商議所の佐藤圭吾事務課長は、「SDGsや環境保全、循環型社会などについての探究型学習が増えており、森林ノミクスは格好の内容といえる」と話す。修学・教育旅行で本県を選択する学校も増えていることから、ツアーの利用を広く呼び掛けていく。

(齋藤敏江)

本年10月、仙台市内の中学校（生徒135名）が「やまがた森林ノミクス」をテーマとしたSDGs教育旅行を最上郡内にて実施。

木質バイオマス発電所、製材工場等の視察見学、植林作業の体験を行った。発電所では再生可能エネルギーの仕組みや意義などについても説明を受け、生徒のひとりは「環境を守るために私たちができるることを考える旅行にしたい」と感想を述べた。

この取り組みは、地元紙「山形新聞」でも大きく取り上げられた。

【探究型・SDGs教育旅行】モデルコース（例）

探究テーマ 【農林業の現状を体感し、未来にときめく地域づくりを考える】

1日目

学校

やまがた森林ノミクス学習
(最上地域内)

木質バイオマス発電所、製材工場視察、
植林作業体験 等

農山村の暮らし体験
(戸沢村・庄内町など)

農作業体験、郷土料理づくり、
受入家庭との交流、民泊体験 等

2日目

日本一美味しい米の故郷で
農業について知る (庄内町)

北楯大堰、亀の尾の里資料館、
カントリーエレベーター視察 等

ヤマガタデザインで学ぶ
「将来の農業と地域の姿」
(鶴岡市)

有機農業の取り組み (SHONAI ROOTS)
将来の農業人材について (SEADS)
食と観光を通じた地域づくり
(スイデンテラス宿泊)

3日目

地域づくりフィールドワーク
【テーマを設定した班別自主研修】
(酒田市・鶴岡市)

(テーマ例)
歴史と文化、最先端技術、食文化、
知育、海洋資源、精神文化 等

加茂水族館 (鶴岡市)

森林保全から海洋資源保護までの
関連と流れを学ぶ

学校

▶期待できる学習効果

生徒自ら問い合わせ立て、体験・交流・視察・フィールドワーク等五感をフルに生かし、課題解決力を養うことができる。

テーマを設定することで農林業の現状から将来像、地域づくりについて「見える形で」学ぶことができる。

自分が暮らす場所に置き換え、どうすれば地域が活性化するか考えることができる。

事例紹介

山形県教育旅行におけるコロナウイルス感染症対策について

農家民泊・農作業体験受入団体「田舎体験塾つかの里」（戸沢村）作成
【民泊受入に対する新型コロナウイルス対応マニュアル】

令和2年6月現在

民泊受入れに対する 新型コロナウイルス対応マニュアル

作成：特定非営利活動法人 田舎体験塾つかの里

監修：山形県 最上保健所

【受入れ家庭】

(1) 事前の健康管理について

- ① 受入れ14日前からの体温を測定し体調管理に務めること。
- ② 石鹼又は消毒液、マスク等必要と思われるものを準備しておくこと。
- ③ 体調不良などが発生した場合には、直ちに事務局に連絡すること。

【受入れ家庭】

(2) 施設内の管理について

- ① 施設内を定期的に消毒する。特に共通して触る部分(ドアノブ・手すり等)は留意する。
- ② 手指の消毒液や手洗い石鹼を設置し消毒の徹底を図る。
- ③ 手や口にするもの(コップ・箸等)は使い捨ての物を使うことを推奨する。
- ④ マスクは食事時以外は出来る限り着用をお願いする。
- ⑤ 施設及び客室は定期的に換気を図ること。
- ⑥ 食事は密にならない様に務めること。
- ⑦ 客室は1人につき2畳以上とすること。

【受入れ家庭】

(3) 子供達の健康に対する留意点

- ① 子供達の健康状態を確認すること。(検温などの実施)
- ② 体調不良等が発生した場合は、緊急連絡網により直ちに連絡及び報告すること。

(4) 野外活動上の留意点

- ① 現場の下見を行い、安全確認をすること。
- ② 体験中は子ども同士の間隔を約2m離すように気をつける事。
- ③ 夏場、屋外での体験中に周囲に人がいなければマスクを外すなど熱射病にも気を配る事。

【田舎体験塾つかのわの里 取り組み】

(1) 田舎体験塾として

- ① 受入れ家庭を招聘し安全講習会を開催する。
- ② 到着時に田舎体験塾にて体温測定を実施する。
- ③ 巡回車の除菌及び運転席と後方間にクリアシート設置
- ④ 参加関係者へ田舎体験塾からの民泊する方へのお願いに
際し承諾を頂く。
- ⑤ 各受入れ家庭に小分けのアルコール消毒剤を1本貸与

【新型コロナ対応緊急連絡表】

新型コロナ受信相談センター

0120-88-0006

※毎日24時間対応

最上地域 最上保健所 地域保健福祉課

0233-29-1268

※平日 午前8:30～午後5:15分迄

田舎体験塾つかのわの里

0233-73-8051

※平日 午前8:30～午後5:00迄

東北中央自動車道の開通により、県内周遊がさらに便利に



平成29年11月に福島大笹生IC～米沢北IC間（無料区間）が開通し、福島市から米沢市までは開通前の約40分から約20分と、大幅に短縮されました。

さらに昨年4月に南陽高畠ICから山形上山IC間、東根ICから東根北ICが開通し、これにより福島市から米沢市、山形市、そして東根市までつながりました。米沢市から山形市まで、これまでの約60分から約40分に短縮されました。

開通により山形県へのアクセスが
さらに便利になりました！
**福島県や宮城県といった隣県を含めた
教育旅行のコースづくりの幅も広がります。
ぜひ、南東北、本県での教育旅行実施に向け、ご検討をお願いいたします。**

山形県教育旅行助成制度のご案内



新たに山形県内で宿泊を伴う教育旅行を催行する
旅行事業者に対して助成金を交付します

助成金交付の目的

山形県教育旅行誘致協議会では、山形県内教育旅行を促進するため、新たに山形県内で宿泊を伴う修学旅行、林間学校、移動教室、宿泊学習、スキー教室等（学校行事の一環として行われるもの）を催行する旅行事業者等に対して助成金を交付いたします。

交付要件について

- (1) 東日本大震災以降初めて企画される山形県以外を発地とし、山形県内の宿泊を伴う教育旅行であること。（インバウンドを含む）
- (2) その他、山形県教育旅行誘致協議会長が特に認める教育旅行であること。

交付額について

実際に催行された教育旅行に対し、貸切バス1台（20人以上利用）あたり40,000円を基本額とし、1団体あたり300,000円を上限とします。

併せて、生徒1人あたり2,000円を助成します。なお、1旅行事業者等あたり原則として1,500,000円を上限とします。

（例）生徒100名での実施の場合（バス3台利用）

貸切バス助成 @40,000円 × 3台 = 120,000円

生徒助成 @2,000円 × 100名 = 200,000円 合計320,000円助成

教育旅行誘致促進助成金については山形県教育旅行誘致協議会へお問い合わせください

[TEL] 023-647-2333 [FAX] 023-646-6333

[E-Mail] manabi@yamagatakanko.com

山形県教育旅行誘致協議会 〒990-8580 山形市城南町1-1-1 開城セントラル1階 (公社)山形県観光振興協会 [担当] 大津・梅津

新たに山形県内で宿泊を伴う教育旅行を催行する
旅行事業者等に対し、助成金を交付しております。
(バス助成 + 生徒助成)

助成金をご活用いただくことで、さらに付加価値が
高い旅行の実施が可能となります。

- ▶ 体験プログラムのさらなる充実
- ▶ グレードアップした旅行の実施
- ▶ 探究型・SDGs等の深掘りによる高い学習効果
- ▶ 感染症対策に係る貸切バス増車等への対応 など

助成金の活用により、

「質の高い“ほんもの体験”」「安心で安全な旅行」
「学習効果の高い旅行」等可能性が広がります！



山形県の教育旅行につきましては、お気軽にご相談ください
manabi@yamagatakanko.com



山形県マスコットキャラクター「きてけろくん」

山形県教育旅行誘致協議会

〒990-8580 山形県山形市城南町1-1-1 霞城セントラル1F
公益社団法人 山形県観光物産協会 内
(電話) 023-647-2333 (FAX) 023-646-6333